

平成15年度 近畿地区公立中学校
修学旅行実施状況報告書

近畿地区公立中学校修学旅行委員会
財団法人 全国修学旅行研究協会

平成15年度 回答状況

(単位:校)

府県名	対象校	回答校	回答率	前年度
大阪府	334	332	99.4%	100.0%
京都府	99	99	100.0%	100.0%
兵庫県	277	248	89.5%	79.1%
滋賀県	98	90	91.8%	73.7%
奈良県	108	107	99.1%	98.1%
和歌山県	138	137	99.3%	90.1%
合計	1,054	1,013	96.1%	90.6%

本年度の回答校数は昨年を大きく上回った。

隔年実施の学校・項目によっては無記入等があるため、合計数が一致しない場合がある。

比率については原則として、0.5%未満は0%としている。

平成15年度修学旅行の実施状況について

1 実施状況について

1-1 旅行実施時期(月別・府県別)

(単位:校)

実施月	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
4月	2	1%	8	8%	55	22%	48	53%	9	8%	3	2%	125	12%
5月	185	56%	57	58%	152	61%	9	10%	74	69%	86	64%	563	56%
6月	132	40%	3	3%	36	15%	18	20%	11	10%	7	5%	207	20%
7月	2	1%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	3	0%
8月	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	1%	0	0%	1	0%
9月	1	0%	1	1%	0	0%	3	3%	0	0%	4	3%	9	1%
10月	0	0%	2	2%	5	2%	0	0%	1	1%	34	25%	42	4%
11月	0	0%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%
12月	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
1月	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
2月	10	3%	20	20%	0	0%	11	12%	8	7%	0	0%	49	5%
3月	0	0%	7	7%	0	0%	0	0%	3	3%	0	0%	10	1%
合計	332	100%	99	100%	248	100%	90	100%	107	100%	134	100%	1,010	100%

実施月は例年と同じ傾向で変動はない。

1-2 旅行実施先(月別・旅行先別)

(単位:校)

実施月 旅行先	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数	校数
北海道	3	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17
東北	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
関東・富士・伊豆	37	296	64	2	1	6	37	1	0	0	6	8	458
信越・信州・中部・北陸	18	67	37	0	0	0	0	0	0	0	35	2	159
中国・四国	0	14	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	20
九州	49	90	60	1	0	1	5	0	0	0	6	0	212
沖縄	18	81	40	0	0	1	0	0	0	0	2	0	142
海外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	125	563	207	3	1	9	42	1	0	0	49	10	1,010

実施校が多いのは、5・6・4・2・10月の順で前年度と同じであるが、6月では関東・九州が増加傾向にある。

1 - 3 旅行実施先(府県別・旅行先別)

(単位:校)

府県 旅行先	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計		
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	前年度
北海道	2	1%	0	0%	5	2%	0	0%	7	7%	3	2%	17	2%	1%
東北	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0%
関東・富士・伊豆	83	25%	53	54%	113	46%	49	54%	38	36%	122	91%	458	45%	43%
信越・信州・中部・北陸	88	27%	34	34%	22	9%	3	3%	12	11%	0	0%	159	16%	16%
中国・四国	16	5%	1	1%	1	0%	0	0%	0	0%	2	1%	20	2%	2%
九州	71	21%	9	9%	76	31%	33	37%	19	18%	4	3%	212	21%	24%
沖縄	70	21%	2	2%	31	13%	5	6%	31	29%	3	2%	142	14%	12%
海外	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0%
その他	2	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	0%	2%
合計	332	100%	99	100%	248	100%	90	100%	107	100%	134	100%	1,010	100%	100%

例年通り関東地方が多く、全体の45%を占めている。

北海道・関東・信州・沖縄が増加傾向にある。九州は減少傾向にある。

1 - 4 旅行費用(生徒一人当たりの総額。小遣いは含まず)

(単位:円)

額/府県名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	平均額
最高額	75,421	94,542	73,000	78,871	93,384	92,000	
最低額	13,721	36,743	38,000	38,055	31,000	15,000	
平均額	53,345	58,878	57,449	58,663	62,360	64,283	
							57,766

班別学習・体験学習の数や内容により、価格にかなりの差が出る。

山間地等のため学校から主要交通機関まで距離がある学校は、費用はずいぶん高くなる。

1 - 5 旅行先別旅行費用(生徒一人当たり平均額)

(単位:円)

旅行先/府県名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県
北海道	74,138	0	57,552	0	78,869	83,645
東北	0	0	0	0	0	0
関東・富士・伊豆	57,055	64,082	60,043	58,676	59,086	60,125
信越・信州・中部・北陸	41,951	53,008	48,840	42,527	51,369	0
中国・四国	46,999	56,995	54,000	56,966	0	59,584
九州	56,357	55,193	54,305	64,041	60,695	59,112
沖縄	61,282	62,897	61,203	63,964	85,525	78,361
海外	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0

1 - 6 宿泊地(数字は延べ泊数)

(単位:泊数)

地区	宿泊地名	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	泊数合計	構成比
北海道	札幌・小樽・ニセコ	0	0	0	0	3	5	8	22%
	函館・湯ノ川	0	0	3	0	1	1	5	14%
	洞爺湖・登別	0	0	0	0	0	0	0	0%
	層雲峡・阿寒湖・網走	0	0	0	0	0	0	0	0%
	富良野・トマム	0	0	0	0	0	0	0	0%
	その他	4	0	7	0	10	2	23	64%
	小計	4	0	10	0	14	8	36	2%
東北	東北	0	0	0	0	0	0	0	0%
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0%
関東 富士 伊豆	東京都内	27	87	116	49	46	174	499	54%
	TDL周辺・幕張・千葉	65	9	53	22	21	34	204	22%
	富士五湖周辺	63	2	49	19	7	25	165	18%
	箱根周辺	1	0	1	0	0	0	2	0%
	横浜周辺	2	7	14	2	6	6	37	4%
	伊豆周辺	4	0	0	5	0	0	9	1%
	その他	3	1	3	2	3	1	13	1%
	小計	165	106	236	99	83	240	929	46%
信越 信州 中部 北陸	白馬・大町	66	8	5	4	5	0	88	28%
	上高地・浅間・美ヶ原	2	0	0	0	0	0	2	1%
	白樺湖・蓼科・清里	9	6	0	0	2	0	17	5%
	乗鞍高原	14	2	0	0	0	0	16	5%
	志賀・黒姫・野沢・妙高	9	31	26	0	4	0	70	23%
	奥美濃・荘川・鷲ヶ岳	11	0	0	0	0	0	11	4%
	高山・数河・奥飛騨	8	0	0	0	0	0	8	24%
	飯田・昼神	27	3	4	0	0	0	34	11%
	その他	30	12	9	2	12	0	65	21%
	小計	176	62	44	6	23	0	311	15%
中国 四国	高知県・愛媛県	8	0	2	0	0	0	10	23%
	徳島県・香川県	0	0	0	0	0	0	0	0%
	広島県(広島・宮島等)	10	1	0	3	0	4	18	41%
	山口県(萩等)	8	1	0	0	0	0	9	20%
	山口県(秋吉台・下関等)	2	0	0	0	0	0	2	5%
	岡山県(倉敷・鷲羽山等)	1	0	0	0	0	0	1	2%
	鳥取県(米子・大山等)	0	0	0	0	0	0	0	0%
	島根県(隠岐)	0	0	0	0	0	0	0	0%
	島根県(松江・出雲等)	2	0	0	0	0	0	2	5%
	その他	0	0	0	0	0	2	2	5%
小計	31	2	2	3	0	6	44	2%	
九州	福岡県(博多・二日市・原鶴等)	2	1	8	7	2	1	21	5%
	福岡県(北九州等)	7	3	6	5	0	0	21	5%
	長崎県(長崎市内)	68	10	70	30	22	5	205	48%
	長崎県(佐世保・ハウステンボス等)	11	0	28	2	3	0	44	10%
	長崎県(雲仙・島原等)	9	2	2	3	1	0	17	4%
	長崎県(壱岐・対馬等)	12	0	6	7	3	0	28	7%
	佐賀県(嬉野・武雄等)	4	2	8	2	4	0	20	5%
	大分県(九重・別府・住吉浜等)	5	0	0	0	0	0	5	1%
	熊本県(阿蘇・内牧・杖立等)	10	0	12	3	1	0	26	6%
	熊本県(菊地・山鹿・天草等)	5	0	5	5	1	0	16	4%
	宮崎県(宮崎・青島等)	0	0	0	0	0	0	0	0%
	鹿児島県(霧島・指宿・屋久島等)	4	0	3	2	0	0	9	2%
	その他	7	0	4	1	1	2	15	4%
小計	144	18	152	67	38	8	427	21%	
沖縄	那覇市周辺	36	3	28	6	18	3	94	33%
	恩納村・読谷村周辺	35	0	14	5	24	2	80	28%
	名護市周辺	12	1	7	0	9	0	29	10%
	本部町・今帰仁村周辺	30	0	9	0	4	0	43	15%
	伊計島・佐敷町	10	0	1	0	1	0	12	4%
	その他	17	0	3	0	6	2	28	10%
	小計	140	4	62	11	62	7	286	14%
合計		660	192	852	186	220	406	2,033	100%

各小計の比率は地区全体の構成比率です。

2 修学旅行での体験学習について

2-1 体験学習の実施状況

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
実施している	312	94%	86	87%	197	79%	82	91%	90	84%	73	53%	840	83%
実施していない	20	6%	13	13%	51	21%	8	9%	17	16%	64	47%	173	17%
合計	332	100%	99	100%	248	100%	90	100%	107	100%	137	100%	1,013	100%

体験学習をしている学校は年々多くなっている。(前年度81%)

2-2 体験学習の学習形態(複数回答可)

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
学年全体	189	21%	51	22%	142	29%	37	12%	75	24%	64	34%	558	23%
学級	148	17%	16	7%	38	8%	35	12%	47	15%	19	10%	303	13%
班別	422	47%	124	53%	258	53%	123	41%	170	54%	101	54%	1,198	50%
男女別	6	1%	0	0%	3	1%	3	1%	1	0%	0	0%	13	1%
個人	127	14%	41	18%	43	9%	99	33%	23	7%	4	2%	337	14%
合計	892	100%	232	100%	484	100%	297	100%	316	100%	188	100%	2,409	100%

学習形態では、学級単位という1方法だけではなく、たくさんの組み合わせを取り入れはじめたために、件数が増加した。

個人で行う体験が増えており、形式的な体験学習よりも各学校が個人の興味・関心を重視して、体験学習を実施していることが伺え、今後もこの傾向は増えると考えられる。

2-3 体験学習の所要時間(複数回答可)

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
60分以内	125	14%	46	20%	132	28%	51	18%	68	24%	67	41%	489	21%
120分以内	254	29%	67	30%	135	29%	110	38%	89	31%	55	33%	710	31%
180分以内	304	35%	55	24%	89	19%	95	33%	75	26%	19	12%	637	28%
240分以内	97	11%	7	3%	51	11%	15	5%	29	10%	7	4%	206	9%
300分以内	29	3%	6	3%	13	3%	10	3%	12	4%	7	4%	77	3%
360分以内	28	3%	19	8%	10	2%	5	2%	3	1%	8	5%	73	3%
420分以内	8	1%	1	0%	8	2%	0	0%	5	2%	1	1%	23	1%
480分以内	12	1%	8	4%	13	3%	4	1%	4	1%	1	1%	42	2%
481分以上	13	1%	18	8%	13	3%	0	0%	4	1%	0	0%	48	2%
合計	870	100%	227	100%	464	100%	290	100%	289	100%	165	100%	2,305	100%

2 - 4 体験学習の内容(複数回答可:資料 参照)

(単位:校)

区分	分類	区分	分類	NO	大阪府	京都府	兵庫県	滋賀県	奈良県	和歌山県	合計
A	歴史文化体験	A1	歴史文化遺産体験		47	9	37	6	18	11	128
					18	1	19	3	14	4	59
		A2	生活歴史文化体験		19	4	20	6	11	6	66
					70	24	39	24	31	12	200
B	社会体験	B1	一般社会 職場体験		12	10	37	17	11	31	118
					17	15	35	26	21	27	141
					2	2	8	1	3	9	25
		B2	福祉 ボランティア		1	1	2	1	1	1	7
					3	1	3	1	1	2	11
		B3	平和学習		102	8	67	23	30	12	242
					20	5	9	13	13	9	69
		B4	国際社会体験		0	3	1	1	0	1	6
					7	10	5	7	4	6	39
		B5	進路選択体験		0	6	3	2	3	4	18
	1			6	2	6	1	2	18		
B6	生活文化体験		54	5	16	6	6	2	89		
			4	0	0	1	1	0	6		
			6	0	3	3	3	0	15		
C	環境保全 共生体験	C1	自然環境体験		39	3	18	8	7	3	78
					3	0	1	3	0	1	8
					0	0	0	1	0	0	1
					2	0	4	2	1	0	9
		C2	生活・社会 環境体験		3	1	2	5	1	3	15
					0	1	0	2	0	3	6
					1	0	2	0	0	0	3
		C3	地球環境体験		1	2	1	2	0	1	7
					0	0	2	2	0	4	8
			0	0	0	0	0	0	0		
D	交流体験	D1	交流体験		4	1	3	1	4	2	15
					1	0	0	0	0	0	1
					1	0	0	0	1	1	3
					6	0	0	0	0	0	6
E	自然 スポ-ツ 体験	E1	陸		21	22	22	0	3	0	68
					7	0	1	0	3	0	11
					23	7	2	6	2	0	40
					25	5	6	7	4	0	47
					3	0	1	2	0	0	6
					24	8	4	4	3	1	44
					15	0	5	7	5	0	32
					25	6	7	9	2	1	50
		E2	海・湖・川		69	5	24	8	22	3	131
					82	11	9	5	10	0	117
					53	6	6	12	3	1	81
					22	0	7	7	13	1	50
					1	0	1	0	1	0	3
					18	0	5	5	1	0	29
					1	0	0	0	0	0	1
		E3	空		0	0	5	2	0	0	7
					38	7	6	5	4	0	60
	3			1	1	2	0	0	7		
			2	0	3	0	0	0	5		
合 計					876	196	454	254	262	164	2,206

複数班が同一内容の体験学習をしている場合は1としてカウントしている。
各学校の工夫で内容は多岐にわたっている。

修学旅行における体験学習の分類

財団法人 全国修学旅行研究協会

区分	分類	区分	分類	NO	内 容		
A	歴史文化体験	A 1	歴史文化遺産体験		歴史遺産...世界文化遺産、建造物、仏像、庭園、古墳、遺跡 文化遺産・芸能...宗教、民俗、伝統芸能、祭		
		A 2	生活歴史文化体験		伝統文化...町並み保存、歴史街道、民具、生活用品 創作...民芸品、食品、菓子、陶芸、絵付け、染色、漆器		
B	社会体験	B 1	一般社会職場体験		行政・政治...国会議事堂、裁判所、官庁等訪問、大臣・知事懇談 産業...公的施設、会社、工場、新聞社、出版社、テレビ局等訪問 社会・勤労体験学習...テ-ブルマ-、商店街等での売り子体験学習		
		B 2	福祉ボランティア		福祉...福祉施設・健康施設見学 ボランティア...ゴミ清掃、老人・障害者介護体験		
		B 3	平和学習		戦争体験...広島・長崎、原爆体験、沖縄戦跡、東京空襲体験 平和活動...平和NGOとの懇談、核廃絶施設見学、軍事基地		
		B 4	国際社会体験		国際交流...外国人学校交歓 国際理解...大使館訪問、外人向け観光バス試乗、国際関連機関		
		B 5	進路選択体験		学校訪問...大学訪問 企業訪問...志望企業訪問、先輩訪問、勤労体験プラザでの学習		
		B 6	生活文化体験		農業...田植え、稲刈り、収穫、りんごの花粉付け、摘果、ファ-ムステイ 林業...植樹、植林、下草刈、 漁業...地引網、養殖		
C	環境保全共生体験	C 1	自然環境体験		自然観察 自然保護 世界自然遺産 スペ-スキャンプ		
		C 2	生活・社会環境体験		エネルギー - ゴミ処理 排水 リサイクル		
		C 3	地球環境体験		地球温暖化現象 海洋汚染		
D	交流体験	D 1	交流体験		学校間交流 姉妹校訪問 都市と田舎の交流 ホ-ムステイ		
E	自然スポーツ体験	E 1	陸		スキ- 登山 トレッキング マウンテンバイク ネイチャ-ゲ-ム 乗馬 探検 その他		
				E 2	海・湖・川		カヌ- ラフティング フィッシング シュノ-ケリング ダイビング ウオッチング 無人島の生活 ガタリンピック
						E 3	空

施設での学習内容は安全学習・環境学習等まちまちだが、施設訪問ということでB1 と

3 主要交通機関について

3 - 1 集約列車の利用状況

(単位:校)

府県 利用状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
集約列車利用する	36	11%	17	17%	132	53%	0	0%	4	4%	65	49%	254	25%
集約列車を利用しない	296	89%	82	83%	116	47%	89	100%	103	96%	69	51%	755	75%
合計	332	100%	99	100%	248	100%	89	100%	107	100%	134	100%	1,009	100%

和歌山県は和歌山県中学校長会が主体となる連合輸送である。

3 - 2 集約列車を利用しない場合の交通機関

(単位:校)

府県 交通機関	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計		
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	
往路	列車	114	39%	43	52%	43	37%	80	90%	43	42%	39	57%	362	48%
	航空機	88	30%	3	4%	52	45%	6	7%	50	49%	30	43%	229	30%
	船舶	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
	バス	94	32%	36	44%	21	18%	3	3%	10	10%	0	0%	164	22%
	小計	296	100%	82	100%	116	100%	89	100%	103	100%	69	100%	755	100%
復路	列車	86	29%	28	34%	44	38%	80	90%	43	42%	11	16%	292	39%
	航空機	103	35%	18	22%	49	42%	5	6%	46	45%	47	68%	268	35%
	船舶	3	1%	0	0%	2	2%	1	1%	2	2%	1	1%	9	1%
	バス	104	35%	36	44%	21	18%	3	3%	12	12%	10	14%	186	25%
	小計	296	100%	82	100%	116	100%	89	100%	103	100%	69	100%	755	100%

近修委(集約輸送)離れが進んでいる。理由は航空機利用の増加や学校の立地条件等が考えられるが、集約以外の新幹線利用については、経費節減の観点から検討の余地があるのではないかと。

今後の修学旅行に対する考えをお聞かせ下さい。

1 今後(数年先)の修学旅行の訪問地について

1-1 旅行先の変更について(数年以内)

(単位:校)

府県 変更状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
旅行先を変えない	167	51%	80	81%	142	58%	52	58%	58	56%	119	87%	618	62%
旅行先を変える	109	33%	11	11%	56	23%	15	17%	26	25%	7	5%	224	22%
検討中	54	16%	8	8%	46	19%	22	25%	19	18%	11	8%	160	16%
合計	330	100%	99	100%	244	100%	89	100%	103	100%	137	100%	1,002	100%

旅行先変更・検討中については38%が可能性があるとしており、高率である。(前年度59%)

体験学習や班別学習の重視・総合的な学習の時間との関連等新しい修学旅行を模索するという観点から変更を検討していると考えられる。

1-2 検討している旅行先

(単位:校)

府県 旅行先	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
北海道	3	2%	1	5%	4	4%	0	0%	1	2%	0	0%	9	2%
東北	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%
関東・富士・伊豆	7	4%	1	5%	11	11%	6	16%	5	11%	1	6%	31	8%
信越・信州・中部・北陸	13	8%	2	11%	1	1%	0	0%	1	2%	0	0%	17	4%
近畿	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	0%
中国	3	2%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	1%
四国	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
九州	14	9%	0	0%	10	10%	2	5%	2	4%	2	11%	30	8%
沖縄	67	41%	6	32%	30	29%	7	19%	17	38%	1	6%	128	33%
その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	3	17%	3	1%
検討中	54	33%	8	42%	46	45%	22	59%	19	42%	11	61%	160	42%
合計	163	100%	19	100%	102	100%	37	100%	45	100%	18	100%	384	100%

充実した修学旅行をさせたい(総合的な学習の時間と関連させてという学校もある)との思いから、検討していることが伺える。検討の主な理由は下記の通りである。

沖縄県の場合は、平和学習・マリンスポーツ・伝統工芸体験等を目的としている。

九州のほとんどは、長崎県である。(平和学習)

環境学習・ボランティア・自然体験・国際理解等を重視したい。

企業訪問・職場訪問等をして、進路選択につながる旅行を考えたい。

地元で体験できないものを体験させたい。

旅行先での交流を重視したい。

インタ - ネットの活用について

1 修学旅行にインタ - ネットを活用していますか。

1 - 1 活用の状況

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
活用している	275	83%	84	85%	209	84%	75	83%	95	89%	111	81%	849	84%
活用していない	57	17%	15	15%	39	16%	15	17%	12	11%	26	19%	164	16%
合計	332	100%	99	100%	248	100%	90	100%	107	100%	137	100%	1,013	100%

1 - 2 活用の内容(複数回答可)

(単位:校)

府県	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
計画・立案の情報収集に	164	37%	69	44%	153	40%	54	43%	72	43%	85	45%	597	41%
生徒の事前学習に	235	53%	75	48%	179	47%	64	51%	81	48%	96	51%	730	50%
学校家庭旅行先との連絡に	13	3%	6	4%	23	6%	2	2%	7	4%	3	2%	54	4%
まとめとしてHPを作成	31	7%	5	3%	19	5%	4	3%	6	4%	4	2%	69	5%
その他	2	0%	2	1%	5	1%	1	1%	2	1%	1	1%	13	1%
合計	445	100%	157	100%	379	100%	125	100%	168	100%	189	100%	1,463	100%

修学旅行のねらいについて

1 貴校ではどのような「ねらい」を重視されましたか。

1 - 1 ねらい(複数回答可)

(単位:校)

ねらい	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
集団宿泊訓練	157	13%	51	14%	91	9%	31	9%	41	10%	60	12%	431	11%
班行動による協力の心の育成	255	21%	81	21%	203	20%	65	19%	81	21%	101	20%	786	20%
公衆道徳の習得	106	9%	39	10%	109	11%	32	9%	39	10%	66	13%	391	10%
教科学習の発展	29	2%	14	4%	24	2%	16	5%	11	3%	25	5%	119	3%
総合的な学習の内容の深化	215	17%	59	16%	130	13%	60	17%	66	17%	49	10%	579	15%
見聞を広め、知識の習得	164	13%	55	15%	251	25%	60	17%	59	15%	111	22%	700	18%
生徒間の人間関係づくり	245	20%	64	17%	142	14%	65	19%	71	18%	84	16%	671	17%
自己課題の設定とその追求	45	4%	8	2%	41	4%	19	5%	21	5%	16	3%	150	4%
その他	16	1%	6	2%	2	0%	1	0%	6	2%	1	0%	32	1%
合計	1,232	100%	377	100%	993	100%	349	100%	395	100%	513	100%	3,859	100%

修学旅行と教科や他の教育活動との関わりについて

1 修学旅行と「教科や他の教育活動」との関わりを持たせましたか。

1 - 1 関わりの状況

(単位:校)

府県 関わりの状況	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
はい	287	87%	80	82%	226	90%	84	93%	97	93%	115	86%	889	88%
いいえ	42	13%	18	18%	24	10%	6	7%	7	7%	19	14%	116	12%
合計	329	100%	98	100%	250	100%	90	100%	104	100%	134	100%	1,005	100%

関わりがあったとした学校は、前年(84%)より増加している。

2 関わりを持たせたのは次のどれですか。

2 - 1 教科内容(複数回答可)

(単位:校)

府県 教科内容	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
国語	15	3%	3	2%	4	1%	5	4%	2	1%	2	1%	31	2%
社会	81	18%	29	22%	53	15%	30	23%	24	17%	41	26%	258	19%
数学	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
理科	22	5%	8	6%	9	3%	6	5%	3	2%	2	1%	50	4%
英語	2	0%	1	1%	2	1%	2	2%	0	0%	2	1%	9	1%
保健体育	6	1%	11	8%	7	2%	1	1%	3	2%	0	0%	28	2%
音楽	4	1%	0	0%	2	1%	1	1%	1	1%	0	0%	8	1%
美術	3	1%	0	0%	1	0%	1	1%	1	1%	1	1%	7	1%
技術家庭	4	1%	0	0%	3	1%	0	0%	1	1%	1	1%	9	1%
道徳	49	11%	12	9%	71	20%	9	7%	27	19%	25	16%	193	14%
総合的な学習の時間	257	57%	65	49%	198	56%	77	58%	83	57%	82	52%	762	56%
特別活動	4	1%	3	2%	1	0%	0	0%	0	0%	2	1%	10	1%
その他	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	447	100%	132	100%	351	100%	132	100%	145	100%	158	100%	1,365	100%

3 「総合的な学習の時間」と関わらせた学習内容は次のどれですか。

3 - 1 学習内容(複数回答可)

(単位:校)

府県 学習内容	大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
国際理解学習	45	7%	23	14%	46	10%	18	9%	18	8%	21	11%	171	9%
情報学習	52	8%	23	14%	64	14%	21	10%	27	13%	37	19%	224	12%
環境学習	92	14%	22	13%	40	8%	32	16%	14	6%	14	7%	214	11%
福祉・健康学習	6	1%	7	4%	13	3%	7	3%	6	3%	7	4%	46	2%
奉仕・ボランティア	6	1%	6	4%	6	1%	4	2%	3	1%	5	3%	30	2%
農村漁村の学習	36	5%	3	2%	7	1%	7	3%	2	1%	1	1%	56	3%
地域文化の学習	140	21%	27	16%	105	22%	32	16%	49	23%	42	21%	395	21%
地域の産業学習	63	10%	24	14%	47	10%	18	9%	21	10%	17	9%	190	10%
日本の歴史・文化の学習	132	20%	20	12%	95	20%	38	19%	43	20%	40	20%	368	19%
その他	88	13%	12	7%	49	10%	26	13%	33	15%	13	7%	221	12%
合計	660	100%	167	100%	472	100%	203	100%	216	100%	197	100%	1,915	100%

4 修学旅行と「総合的な学習の時間」の時数の関わりについてお答え下さい。

4 - 1 修学旅行を「総合的な学習の時間」の時数としてカウントしましたか。 (単位:校)

カウント状況	府県		大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
カウントした	344	92%	83	85%	250	93%	136	95%	93	88%	114	84%	1,020	91%		
カウントしなかった	30	8%	15	15%	18	7%	7	5%	13	12%	21	16%	104	9%		
合計	374	100%	98	100%	268	100%	143	100%	106	100%	135	100%	1,124	100%		

4 - 2 修学旅行を「総合的な学習の時間」の時数としてカウントしたのは次のどの場面ですか。 (単位:校)

カウント場面	府県		大阪府		京都府		兵庫県		滋賀県		奈良県		和歌山県		合計	
	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比	校数	構成比
事前学習の時間	70	20%	12	14%	45	18%	24	18%	15	16%	25	22%	191	19%		
旅行中の学習	45	13%	12	14%	18	7%	18	13%	4	4%	21	18%	118	12%		
事後学習の時間	31	9%	7	8%	23	9%	10	7%	8	9%	10	9%	89	9%		
事前・事後学習の時間	120	35%	37	45%	131	52%	29	21%	35	38%	34	30%	386	38%		
事前旅行中事後全ての学習の時間	78	23%	15	18%	33	13%	55	40%	31	33%	24	21%	236	23%		
合計	344	100%	83	100%	250	100%	136	100%	93	100%	114	100%	1,020	100%		

カウントした場合の比率は合計数の構成比率である。

VI 体験学習についてのご意見等

(いくつかのご意見等をまとめて書いたものもあります。)

- スキ - 実習は、大自然に直接触れられること・時間を意識し行動することができる点は良い。また自分の努力が目に見えるということから生徒に充実感を与えることができる。技能の差による指導のあることが良い。
- 自然の中での牧場体験等は、土の暖かさや自然と触れ合うことの大切さを学ばせることができ、都会で育った生徒にとって新鮮で興味深いものとなった。
- 訪問した市が環境再生に取り組んでおり、そこでの学習は生徒には生きた学習となった。訪問地で単に何かを体験するというのではなく、これからの生徒の生き方に影響を与える体験学習探しの難しさを感じた。
- 平和学習を目的として訪れた地での被爆体験者・戦争体験者の話は、平和の尊さについて学校の授業では伝えきれない貴重な体験であった。戦争は語ってもらうことにより実感できる。ただ、語り部の話を静かに聞くことができるという行儀の指導には時間がかかった。
- 体験学習は事前の準備・学習が大切である。今回は充分に取り組んだ後旅行をしたので、充実した体験ができた。
- 初めてパラグライダー - の体験をして生徒には良い思い出になったが、少しけがをした生徒もいて安全には事前に充分確認する必要があると感じた。
- 沖縄県は身近な旅行先となったため、歴史・平和学習・海洋体験等幅広く学習することができるようになった。
- 体験学習は内容によっては雨天の場合対応できないものもあり、せっかくの生徒の努力が実らないこともある。悩みの一つである。
- 体験先との事前の打ち合わせ等大変な仕事であるが、体験学習は単なる見学とは違い、生徒の意識にいつまでも残るものである。それだけに内容については、学校も充実したものを選ぶよう努力することが大切である。
- 都内を班別で体験学習した。自分たちで考え判断して行動することができた。ただ、行動範囲が広いので事故の際の対応が難しい。生徒の希望が人気スポットに集中しやすい。
- 生徒が自分の希望に応じて体験学習を選んだために、積極的に取り組み、学習を深めることができた。単なる観光・見学よりも深まった。今後農業体験等も取り入れたい。
- 反省として体験学習をする内容の情報収集を事前に充分しておくべきであったと考えている。また、日程を欲張りすぎたために落ち着いた取り組みができなかった。
- 防災体験(地震体験・応急救護体験・煙体験・消火体験等)は、今後に役立つとの感想を述べた生徒が多かった。
- 短時間では内容が表面的になってしまう。思い切って1日を体験学習に当てる方向で考えたい。
- 近畿では体験できないことが修学旅行ではできるが、費用が全体的に高いように思う。中学生が相手であるので、受け入れ関係者等で検討してほしい。
- 訪問地の人たちとの交流は、人々の温かさやその地方の暮らし等に触れることができ、生徒の心に計り知れない良い影響を与えた。
- 旅行業者の紹介してくれた体験学習をしたが、金額から考えて中身が不十分であった。
- 旅行日程に土・日が含まれていたため、当初予定していた見学・体験ができなかった。
- 計画の段階から班員の協調性や団結力を養うことができた。また、自分たちで行動することによって自立心や向上心が芽生えた。

- 見学が主であったので、受け身の活動になってしまった。
- 平和学習については、施設見学が主な活動となった班が多かったので、今後現地の人達との交流や進路学習に繋がる内容を企画したい。
- 大使館の訪問は国によっては職員の対応のないところがあり、目的を達成できない班もあった。また、国によっては所在地の変更や電話番号の変更があっても公に表示していない所もある。
- 3年間毎年校外班別学習に取り組み、そのまとめとして修学旅行でも班別学習に取り組んだ。3年間を見通した活動によって生徒に自主性が身に付いたと思う。
- 学年全体で受け入れてくれるところがなく、学級単位で申し込むにも2年生の3学期までの予約が必要となる。3年生になった時の学級編成も決定していないので、予約対応が大変難しい。
- 河口湖周辺で体験(カヌー・ラフティング・釣り・洞窟探検)をしたが、洞窟が小さく擦り傷続出、釣りは一匹も釣れず失敗であった。事前によく調査しておくべきであった。また、費用がとても高く課題である。
- 模擬国会を体験させてもらって、国会の仕組みが理解できた。
- 国会については見学内容を充実させてほしい。駆け足で階段の上り下りだけでは生徒にはよくわからない。東京に行く目的の一つは国会見学にあると思う。それが毎年同じような貧弱な内容では、国会に行くメリットがないに等しい。
- 沖縄方面への修学旅行が激増しているため、体験学習に支障が出ているように思う。シュノーケリング体験は天候に左右されるのと、業者によってメニューと指導力に差がある。台風等で予定した自然体験ができないことも多いので、代替メニューをしっかりと準備しておかなくてはならない。近畿地方にはない、亜熱帯の自然を体験できるのは良い。
- 海に面していない県に住む子供たちにとって、海洋体験は感動であった。
- 屋久島を訪問したが、貴重な体験であった。ただ、費用が高くつくし台風などの場合は船酔いする生徒が多く出る。
- 都内での企業訪問は郷土の活性化のための調査活動として行った。目的は達成できた。
- 「首都機能を探そう」をテマに、学校が提示した施設等を班単位で選択し事前学習・体験学習をした。
- 都内での移動はすべて徒歩・電車・地下鉄利用であったので、大都会を実感できたと思う。
- 総合的な学習に位置づけ事前学習を行ったので、目的意識をもって体験学習に臨む事ができた。ただ、場所によっては見学のみで終わったところもある。様々な条件にかなう所を探ることが困難である。
- アポイントや訪問先での挨拶や対応の仕方について貴重な体験ができた。自分たちで調べた内容を自分の足で歩き、目で見て来るという点では良い体験ができた。生徒から「恥ずかしかったが、良かった。」との意見が多く、今後は郷土につながるのがある取り組みをしたい。
- 修学旅行が物見遊山にならるようにするために体験学習を大切にしたい。
- 事前学習で調べ学習をしたので、クラスの仲間意識が強まり互いに助け合う気持ちが向上した。また、リダが意識を持って役割を果たすようになった。
- どのような内容の体験であっても、旅行先での体験は普段地元ではできないことが多く、何事にも代え難いと思う。

- 沖縄では島の民家でホ - ムステイさせてもらい、各家庭との交流は大変良かった。ただ、細かな打ち合わせがしにくいという課題はある。
- 昨年度より全行程を私服に替えて実施したが、特段の問題はなかった。
- 規模の大きな学校では、班別活動が大変難しい。
- 体験内容を生徒の興味・関心を参考にして選択させた。そのため生徒は充実感を味わい、表情も明るく修学旅行そのものが成功したと思えた。保護者からの評価も高い。
- 農家で分散して宿泊・農業体験をさせてもらったが、普段の生活ではできない体験ができ大変よかった。各農家では家族と同じ生活をし、人生訓話も聞かせてもらって良い体験学習であった。
- 古い町並みを散策するだけでなく、昔からある伝統産業を体験することにより、昔ながらの生活や現地の人達と触れ合いも深まった。単なる見学でなく体験の良さはここにあると考える。
- テ - マ別学習として、自分の興味や関心を含めた課題を設定し、訪問先とのインタ - ネットを通じた交流も含め、内容の濃い都内フィールドワークをすることができた。今回は班別行動で、GPS機能のついた携帯電話を各班に持たせ、位置確認や安全対策に考慮した。分散型の体験学習について、生徒管理や安全対策が充分できるかがポイントになる。
- 事前学習がある程度出来上がっていれば、旅行先での体験学習は本当に意味のあるものになる。予備段階でどれだけ学習できるかが、勝負と思う。
- 現在はスキ - 体験のみであるが、将来的には幅広い分野で、通年の総合的な学習に役立てられる体験学習を考えている。
- 近代化した東京で何百年もの間地域の伝統行事を昔のまま伝え守ってきた人々の姿に感動した。一緒にみこしをかつぎ江戸っ子の気質に触れ、日本人の心の源流に触れることができた。
- 体験学習については、近い場所で費用を少なくする工夫をする必要がある。

その他

イラク戦争の影響等を懸念して、急遽航空機を使わない修学旅行に変更した学校もあった。その学校からは十分な体験学習についての事前学習ができていなかったとの反省があった。体験学習では、

費用の格差が大きすぎる(全体的に費用が高すぎる)
 班別活動をした場合生徒の安全確認の課題
 悪天候のため生徒が計画した体験ができなくなる
 本当に生徒の将来に役立つ体験とは何か等、
 多くの悩みや課題が書かれていた。

修学旅行についての意見等

- 修学旅行の事前・事後学習等に「総合的な学習の時間」を活用することは、授業時間を確保するという点ではよいが、「総合的な学習の時間」と関連させなければ修学旅行が成り立たないという風潮がある。もう少し柔軟に考えれば現場として取り組みやすくなる。
- 生徒に自主的に取り組ませるという点を大切にして、修学旅行を実施した。
- 沖縄方面への修学旅行が増えている中で、航空機輸送に大きな課題が出ているように思う。調整ができないものか。
- 沖縄方面への修学旅行が増加しているため、航空機の確保が難しくなっている。生徒数が多い学校は大型機しか使えないため、昼頃の便になってしまう。旅行業者に頼らざるを得ないが、納得する対応が得られないことが多い。新幹線の予約を修学旅行委員会で扱っているように航空機の確保もできるようにならないか。増発等の対応を是非頼みたい。
- 沖縄への日程決定が航空機の関係でずいぶん遅くなった。17年度以降航空機を含む日程がうまくいくのか心配である。
- 沖縄方面の修学旅行がある時期に集中して、航空機予約が大きな課題になっています。本校では当地方では一番早く沖縄に行き始めたが、調整が難しいのであれば旅行先を検討しなければなりません。
- 航空機のキャンセル料金が高いので安くないか。
- 航空機利用が可能になれば、行き先や内容が幅広く検討できる。
- 航空機を利用して沖縄を訪問することは、事故等の心配はあるが、旅行先としては自然・文化・歴史・平和等を学ぶ上で有意義な場所であると思う。事前準備をしっかりさせ、自ら学ぶ姿勢で事後にも生かせる修学旅行にしたい。
- 本校では平和学習は小学校で既に済ませており、今後は国際テロやイラク問題等も含めた平和学習を進めるべきとの発言があった。他校の修学旅行の目的はどうなっているのでしょうか。そのような情報を知ることができればありがたい。また、安心して航空機利用ができる時代が来てほしい。
- 沖縄修学旅行は8年目になるが、年々希望する日が予約しにくくなっている。空港もなかなかきまらなかった。
- 夏季休業中の修学旅行実施を検討している。
- 今回の修学旅行のねらいについては大変良かったと評価している、ただ、クラス別に分宿したために安全確保の点から課題があった。
- ゆとり教育・学校五日制等で行事の厳選が欠かせない中、修学旅行を「総合的な学習」と関連させながら体験学習や教科の学習も盛り込んで内容を検討していく時期が来ている。たくさんの取り組みの例を情報としてほしい。
- 修学旅行に関する学習を「総合的な学習の時間」と関連させることにした。従前は事前・事後学習の時間が不足したり、特活の時間も不足したが、この課題は解決された。
- 修学旅行や体験学習は「総合的な学習」そのものだと思うが、本校ではカウントすることができなかった。カウントするための条件がありすぎるように思う。
- 修学旅行費用が高くなっており課題が多くなっている。より安い費用で教育効果のある修学旅行の検討に入っている。
- 近年、修学旅行の内容も多種多様となっているが、特色ある学校作りの観点からも良いことである。ただ、経費の高いのが気になる。不況の中で保護者の負担も大変と思う。中学校の修学旅行の費用は、50,000円程度が相応しいと考えるが検討してほしい。

- 集約輸送についていくつか不便を感じている。
 出発日が日曜に当たると不便である。
 コ - スによっては帰着が遅くなる所がある(集約)。校長会での検討が必要と思う。
 他のコ - スも学校から新幹線駅までの所要時間を考えて時間設定されているか。
- 修学旅行が本当に必要なのかという疑問を感じます。割高な費用・各業者とも差のない料金設定・各地から誘致等ビジネス化していることに疑問を感じます。
- 往路は、自宅から目的地の宿舎までグル - プ単位での現地集合という体験学習を行った。一般の人に交じって交通機関を利用し、全員予定通り目的地に到着することができた。
- 沖縄での海洋体験は安全管理が課題である。下見では充分確認できない所がある。
- 都市近辺にある本校には、自然体験や農業体験等豊かな自然の中での生活・観察・見学はとても大切な経であると思います。自然を大切に作る心が培われる気がします。日本は農業国であり、農業を大切に作る生き方を身につけることを大切にしたいと思います。
- 長崎方面への修学旅行は、平和学習だけでなく様々な自然体験もでき評価は高い。しかし、航空ダイヤの改正により長崎便が減少しており、今後行き先変更をせざるを得ない。より良い修学旅行の追求を今後も進めていく必要がある。
- 体験を強く押し出しすぎると事故や安全管理との関わりで課題が多い。全国の学校の考え方や動向がどのようになっているのかを知りたい。
- 班別体験活動依頼事業所へのアポイントメント、実行委員会への指導と細かいマニュアル、詳しい資料準備と綿密なマニュアル、全班長会、専門委員会、各部会の指導と役割分担等、準備に時間をかけた。そのことが、結果として良かったと考えている。
- 修学旅行を総合的な学習と関わらせて学習させたが、生きる力を育むにはどうすればよいか模索中です。
- 本校の修学旅行先は首都を含む周辺であるが、生徒が喜ぶディズニー - やお台場に左右されることは好ましくない。
- 現在行われている修学旅行については見直しの時期に来ていると思う。レジャー - 旅行化していること、また費用が高くなっている。将来的には関西圏での体験学習に変えたいと考えている。
- 授業時数の確保が重視される中、目的意識をしっかりと持たせた修学旅行の実施が求められている。
- 集約列車の割り当てについて。本校はここ数年の出発日が週末になっている。東京での体験活動に影響が出ており検討してほしい。
- 体験学習の実践例を紹介してほしい。
- 体験学習に協力して頂いた事業所等のリストがあれば学校はありがたい。1-2-(2)のような資料に所在地・電話番号・体験内容が加えられたリストがあれば学校にとって幸である。
- 1-2についてこれ程細かく調査する必要があるのか。内容と形態だけで良いのでは。
- 修学旅行をどのような学習の場と考えるべきかについては意見が分かれるところがある。個人旅行とは違う集団活動をどう構築していくかが課題である。
- 姉妹都市の関係で海外への修学旅行を検討したが、受け入れ条件や学校間交流で課題があり実現には至らなかった。引き続き検討していく。
- 体験学習の分類に人権学習を入れるべきだと思う。
- 本校では体力・健康の増進をねらいとしているが、にはそれがない。
- 一学期に修学旅行を実施している学校もあるので、この調査をもっと早くできないか。